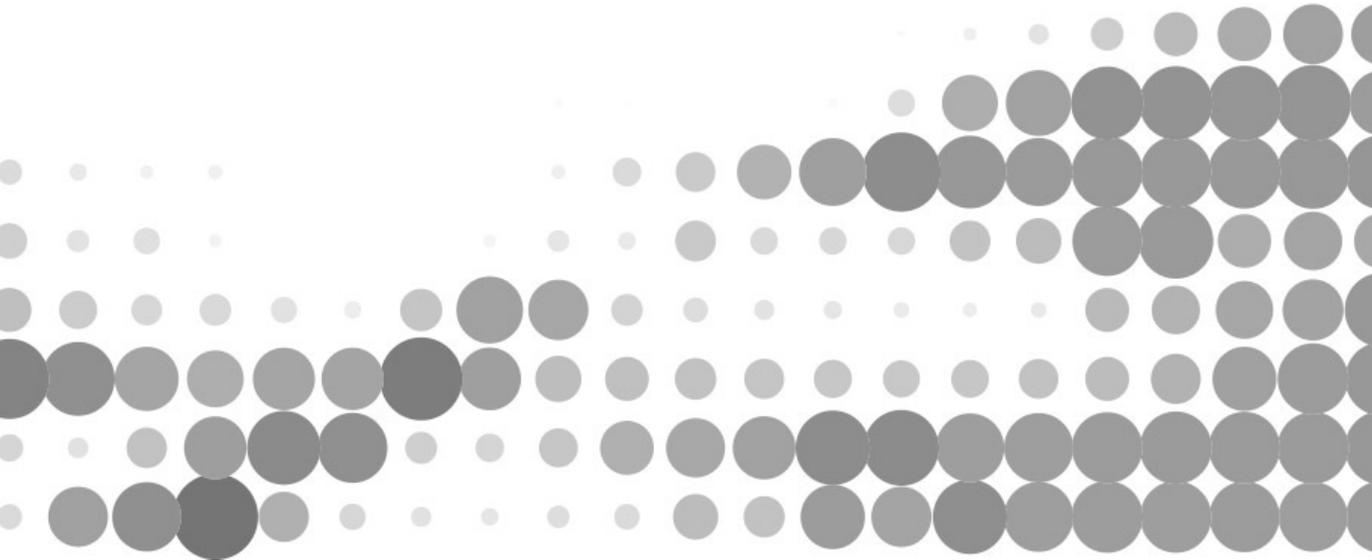


3訂新版

# よくわかる 決算書の読み方





## はじめに

### 目で見てすぐわかるやさしい経営分析 比較分析で自社の「強み」「弱み」を判断

決算書の読み方の学習をはじめましょう。

決算書とは、貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書に代表される財務諸表を指します。この講座では、こうした決算書を読み、基本的な経営分析をすすめることのできる基礎知識を身につけていただくことをねらいにしています。

決算書というと、身構えてしまって、難しく考えすぎてしまうくらいがあります。簿記の技術を知らなければ、決算書がわからないと思込んでいる人もいます。しかし、実務に携わっている人が、決算書を読み、経営判断に必要な情報をとらえるためであれば、難しい専門知識はあまり必要ではありません。むしろ、ビジネスの実態を知っていることのほうが、予備知識として重要です。

第Ⅰ部では、主に、貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書の意義や構造の基本的なところから解説しました。決算書は共通のルールによってつくられています。そのルールさえわかれば、各社が開示する情報を読むことができます。

第Ⅱ部では、経営分析をすすめるうえで必要な手法を紹介しました。まず、自社の収益性、安全性、成長性などの現状を把握してください。次に、ライバル企業などとの比較分析をすすめ、自社の「強み」「弱み」を判断し、経営改善につながる戦略を考えることが大切です。

添付の支援ツールを使えば、データを入力するだけで、分析に必要な主要な指標の計算やグラフ化などを簡単に行うことができます。ここで出てきた数字の意味をじっくり読み取ってください。経営分析結果を収益改善に活かし、強い会社をつくるための行動につなげていきましょう。

# C contents

---

はじめに .....	3
<b>第Ⅰ部 B/S, P/L とキャッシュ・フロー計算書の読み方</b>	
1. 決算書とは何か .....	6
2. 貸借対照表のしくみと読み方 .....	10
3. 損益計算書のしくみと読み方 .....	20
4. 株主資本等変動計算書のしくみと読み方 .....	26
5. キャッシュ・フロー計算書のしくみと読み方 .....	28
6. 連結決算書のあらまし .....	35
7. 進化を続ける決算書 .....	40
研究課題Ⅰ .....	42
<b>第Ⅱ部 やさしい経営分析のすすめ方</b>	
1. 経営分析の目的とその目のつけどころ .....	44
2. 収益性の分析と評価のポイント .....	50
3. 安全性の分析と評価のポイント .....	58
4. 成長性の分析と評価のポイント .....	64
5. キャッシュ・フロー関係の分析指標 .....	66
6. 支援ツールを活用した経営分析のすすめ方 .....	72
7. 強い企業と弱い企業の見分け方 .....	80
8. 経営分析を企業価値の創造にどう活かすか .....	82
研究課題Ⅱ .....	84
解答と考え方 .....	86



# 第I部

B/S, P/Lと  
キャッシュ・フロー計算書の  
読み方

# 1

## 決算書とは何か

### 1 決算書の意味

決算と聞くと、「決算が近づいてきたから、忙しくなって残業が増える」、「在庫の棚卸作業が面倒くさい」など、マイナスのイメージを持つかたも多いのではないのでしょうか。しかし一方で、書店に行くと、初心者用に決算書が簡単に読める方法を伝授した本が多く、決算書が経理部門や経営層のかたたちだけではなく、幅広い層のかたたちに関心を持たれていることがうかがえます。

決算書

決算書とは、いったいどういうもので、何の目的でつくられるのでしょうか。一般に決算書は、主に4つの書類から構成されています。

- 貸借対照表
- 損益計算書
- 株主資本等変動計算書
- キャッシュ・フロー計算書

貸借対照表  
損益計算書

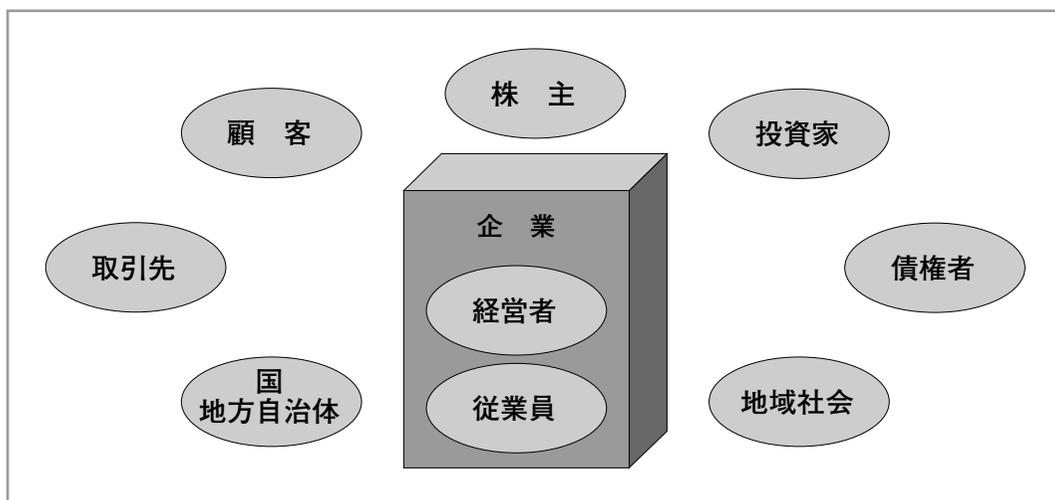
馴染み深いのは、貸借対照表と損益計算書でしょう（図表 I・1）。

▲ 図表 I・1 決算書

貸借対照表（△年3月31日）

（円） 損益計算書（○年4月1日～△年3月31日） （円）

【資産の部】	金額	【負債及び純資産の部】	金額	科 目	金額
流動資産		【負債の部】		売上高	
		流動負債		売上原価	
固定資産		固定負債		売上総利益	
有形固定資産		負債合計		販売費及び一般管理費	
無形固定資産		【純資産の部】		営業利益	
投資その他の資産		株主資本		営業外収益	
		その他の包括利益累計額		営業外費用	
繰延資産		新株予約権		経常利益	
		非支配株主持分		特別利益	
		純資産合計		特別損失	
資産合計		負債・純資産合計		税金等調整前当期純利益	
				法人税・住民税・事業税	
				当期純利益	
				非支配株主に帰属する当期純利益	
				親会社株主に帰属する当期純利益	



▲図表 I・2 利害関係者（ステークホルダー）

それでは、これらの決算書を作成する目的は何でしょうか。

企業が決算書を作成すると、その企業の経営者はもちろん、従業員、株主、債権者、投資家、税務署など様々な利害関係者（ステークホルダー）ステークホルダーが、それぞれの目的を持って、決算書を利用します（図表 I・2）。そこで、端的にいうと、決算書を作成する目的は、企業の業績や財政状態をステークホルダーに明らかにするということになるでしょう。

ということは、決算書を読み解くことができるようになれば、企業の収益性や安全性、成長性を分析できるということになります。つまり、自分の働いている企業がどういう状況なのか、強みや弱みは何か、また、競合他社と比べてどうなのかを把握できるようになります。

決算書を読むということは、企業の全体像を把握し、知名度の高さやビルの大きさではわからない、企業の中身を読むということなのです。

## 2 決算書の種類

決算書は、主に4つの書類から構成されていると前述しました。しかし、法律上は決算書という用語はなく、日本では「会社法」と「金融商品取引法」という2つの法律が、決算書の種類を定めています（8ページ図表 I・3）。

「会社法」では、決算書のことを「計算書類」といいます。計算書類は、会社法 計算書類  
①貸借対照表、②損益計算書、③株主資本等変動計算書、④個別注記表